

アワーミュージアム

第15号 2001年2月10日発行


くちさやま くノのりつ せつにしざえ
 雲早山鉄之助と相撲錦絵

しのはらしゅんじ
 篠原俊次（友の会会員）

筆者の住む半田町出身で、後年角界で名を成した雲早山鉄之助という相撲取りがいた。

半田奥山村日開野の医師、にしはらぎちゆう西原儀仲の長男として、文化11年（1814）〔一説には文化8年〕に生を享けた。大坂で医業の修行中に見込まれ、湊部屋入門。郷里の名峰を取って、やはずやま矢筈山鉄之助を名乗った。天保10年（1839）大坂相撲から江戸相撲へ移り、同15年には雲早山と改名し、嘉永4年（1851）春場所では、初優勝を飾っている。最高位は前頭2枚目だったが、嘉永7年5月の大坂相撲では関脇となり、安政2年（1855）限りで引退後は大坂の名門湊部屋を継いで、頭取専務湊由良右衛門を襲名した。雲早山の真骨頂はこの頭取専務時代で、多数の強豪力士を育て、大坂相撲の大立者として君臨した。明治8年（1875）62歳で没した。



化粧まわし姿の雲早山鉄之助

さて、阿州はちすか太守蜂須賀氏は、12代治昭から15代茂韶にかけての時代に、相撲の興隆に力を注ぎ、全国的にも代表的な相撲大名となった。幕末には17名のお抱え

力士を擁し、相撲長者と呼ばれた。特にきめんざん鬼面山谷五郎、陣幕久五郎、大鳴門灘右衛門、虹ヶ嶽右衛門の4力士は、阿州四天王と称された。大名が力士に大きな扶持を与えるの



着物姿の雲早山鉄之助

は、本人の相撲好きは言うまでもないが、他国出身力士であっても、しこ名の上に阿州と冠させて、強豪力士の名声を借り、藩の宣伝とイメージアップをはかり、物産の拡販などに利用する狙いがあった。力士の側も厚遇にこたえて、鬼面山や初代剣山谷右衛門のように、本場所が開かれていない間は、徳島城下に住む律儀な者もいた。

当時、現代のプロマイドに該当するものとして、相撲取りを描いた錦絵（多色刷りの浮世絵版画）が盛んに刷られ、販売された。昭和年間（1764～72）に始まり、明治40年ごろまでの約140年間が盛んで、携わった浮世絵師は百人を超え、描かれた図柄は1万枚とも2万枚ともいわれている。要するに、正確な種類はだれにも分からないのである。

くだんの雲早山を描いた錦絵は、従来、6種類を確認していたが、一昨年から昨年にかけて、あらたに2種類を見つけ、合計8種類となった（筆

者はこのうち、新発見の2枚を含め3枚を所持している)。1年足らずの間に2種類加わったことから推測すると、雲早山の異なった図柄は2桁は発行されたのではないだろうか。鬼面山や陣幕といった横綱クラスの人気力士はもっと多かったに相違ない。

こうしたことを勘案すると、阿波にゆかりのある力士の錦絵は、数百種類はあるものと推察できる。今後、大きな成果の期待できる収集研究分野である。

バンドゥン地質博物館を訪れて

かめい ただお
亀井節夫(前博物館長、友の会会員)

この夏、インドネシアの地質研究開発センター(地質調査所)に招かれ、バンドゥンを訪ねました。関西空港から首都のジャカルタまでは直行便で6時間半の空の旅、ジャカルタからは車で4時間、植物園で有名なボゴールから、茶畑の線が広がる峠を越え、バンドゥンの町に入ります。



インドネシアの地質研究開発センターの外観

地質研究開発センターは町の北部にあり、その一部が博物館になっています。オランダの植民地時代の1929年に、地質研究所イコール博物館として開館したもので、今でも、博物館がこのセンターの建物の中心部を占めているのです。

20年前から何回かここを訪れ、その度に、貴重な標本が未整理であったり、薄暗い展示室に標本が詰まったままなのが気になっていました。それでも、ここは“ピテカントロプス”の博物館ということで、入館者は年約10万、その85%は学生

と生徒でした。

そのこともあって、インドネシア政府はこの博物館を教育的な博物館に改造することを決め、日本に援助を求め、日伊共同のリニューアルのプロジェクトが1993年から進められ、今回の再開式典となったのです。この式典に、メガワチ副大統領はじめ閣僚、各州知事、日本側からは日本大使はじめ関係者40名が参列しました。式典の翌日には内閣改造が発表され、参列した閣僚たちが重要ポストを占めていて、博物館への期待の大きさを知りました。

博物館の展示は、「インドネシアの地質」「生命の歴史」「人間生活と地質学」の3部に分かれ、見違えるくらい立派になりました。収蔵庫も、地域ごとにキチンと整備され、研究室や機器類も充実しています。

入館料は無料ですが、連日、満員御礼で、その状態はオープンから2カ月経った現在でも続いているとのこと。展示を見に来た生徒達と話をする機会がありましたが、皆、快活で礼儀正しいのにはすっかり感心させられました。また、館の職員は館長以下22名、全員の懇談会に出席したところ、リピーター、セキュリティー、移動博物館、特別展示などなど議論百出、さらに展示の現場に引っ張り出されて具体的な問題について質問攻めに会いました。ともかく、来館者も職員も、インドネシアの人達はこの新しくなった博物館に真剣に取り組んでいる、という印象を強く受けて帰ってきました。



ステゴドンゾウの前で

博物館紹介 14



上板町立歴史民俗資料館

ふじた のえこ
藤田乃枝子（友の会会員）

上板町の北、緑豊かな阿讃山脈ふもとの麓に位置する上板町立歴史民俗資料館は、四国縦貫高速自動車道の建設にともない周辺特別対策事業の1つとして建てられました。敷地2,575平方メートル、建物面積690平方メートルで、屋根に瓦を葺いた白壁の日本的な建物です。



上板町歴史民俗資料館の外観

資料館では、上板町が発祥の地である「阿波三盆糖」や「阿波藍」に関する資料を主体として町内で採集された考古学資料や先人たちが残した日常生活用具、農具等を多数展示しています。屋内に3つの展示場と屋外には特設列車を改造した体験学習間があります。

まず、入り口左側の第1展示場には、中世白亜紀の生物化石をはじめ、土器、石器、よろい鎧などの歴史的な資料から「丸山徳弥まるやまとくや」より作られた「阿波



砂糖車

三盆糖」の苦労話も紹介されています。140年前には、盛んに栽培されていたさとうきびも最近ではめっきり少なくなりましたが、資料館の南にある「阿波三盆糖資料館」では今でも昔ながらの製造工程を知ることができます。

次に入り口右奥にある第2展示場には、廃線となった旧国鉄「かじやばら鍛冶屋原線」の写真や関係資料があり、過ぎ去りし日々を思い出させてくれます。また上板町出身の農学博士の「川瀬惣次郎」や文学作家の「生田花世」両氏の足跡をたどる資料が置かれています。

それから左奥の第3展示場は、明治から昭和までの農具、生活用品等が、所狭しと並べられています。まず、手前に山仕事で使用する手釣てかぎ、手斧ちょうな、枝打鎌などの道具があり、厳しくつらい山での作業がしのべれます。また、中央付近には、田ごろはったんどり、八反取なわよりき、足踏み脱穀機、縄撚機等の農具が置かれています。戦後広く使用された物もあり、幼い頃に見かけた人も多いのではないのでしょうか。そして今でも町内で栽培されている葉煙草の関連道具や吉野川などでの使用されたであろう漁具、機織り機などの木製の道具がちょっと昔の世界へタイムスリップした様な気分させてくれます。

道路をはさんで「技の館」や「上板町日曜日」などがありますし、南へ下れば「松島の千本桜」でおなじみの徳島県畜産試験場、北の山には「おおやま大山の力餅」で有名な大山寺たいさんじがあります。四季の移ろいを楽しみに1度お出かけになりませんか

上板町歴史民俗資料館

開館時間	午前9時～午後4時30分
休館日	月曜日・祝日・年末年始
入場料	大人 210円 小・中学生 100円 6才未満 無料
所在地	板野郡上板町泉谷字原中筋8-1 TEL 088-694-5688

友の会行事報告



園瀬川探検（第3回）報告

さわ しょうじろう
澤 祥二郎（友の会会員）

11月12日（日），第3回「園瀬川探検」には友の会会員10名（うち第1回から連続の参加者5名）と博物館から4名の総勢14名で文化の森から上流へ向け出発しました。今回は上八万町の丘陵と水田が広がり，^{えのみや}宅宮神社や^{しもんじ}四門寺など見どころも多い場所で，前日とは打って変わって天気も上々，どんな発見があるのかわくわくしながらの出発となりました。

最初に訪れた^{こんごうこうじあと}金剛光寺跡では，^{しょうとくがんめい}正徳元の銘の入った水鉢があっただけでした。ただ，^{みずばち}緑色片岩の^{みたさんぞん}弥陀三尊の^{いたび}板碑を見つけたのが収穫でした。園瀬川沿いに歩くと，^{かわも}川面をカイツブリが泳いでいました。しばらく行くと，兩岸に山が迫る場所に^{おおやまずみのみこと}大山祇命をお祭りしている^{ほこら}祠があり，竹ぼうきらしきものがおいてあり，なにか意味のあるもの

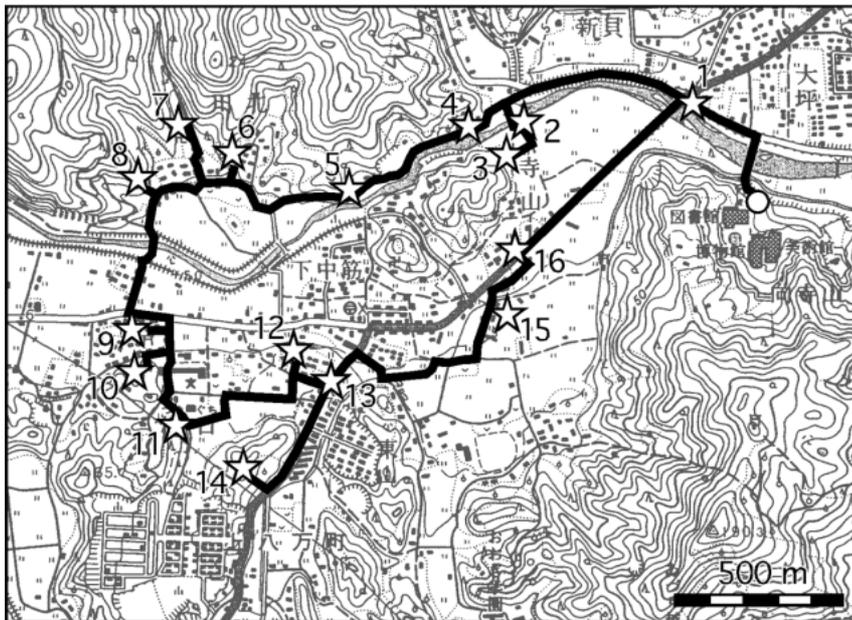


金剛光寺跡で見つけた板碑



川北の板碑と六地藏

ではとの議論もありましたが，地元の人に聞くと落ちたどんぐりの掃除に使っているとのこと，一件落着。



第3回園瀬川探検ルートマップ（国土地理院2万5千分の1地形図「徳島」平成9年修正測量）。1地蔵尊，2不動明王，3金剛華寺（金剛光寺跡），4大山祇命・罔象女，5江戸時代の墓碑群，6川北の板碑・石造物，7四門寺，8天王神社，9宅宮神社，10西国三十三番・五輪塔板碑，11瀧宮天王神社，12八幡神社・諏訪神社，13道標，14樋口古墳，15注連飾り，16六地藏板碑。番号は順路を示す。

川北集落の入口には，古そうな^{るくじぞう}板碑，^{ばとうかんのん}六地藏，^こ馬頭観音，^{すてんのう}五須天皇の石碑がかたまってありました。集落の奥に^{しんごんしゅうおむろ}真言宗御室^{はねはんさんしもんじ}派涅槃山四門寺（地元の人達は「よんもんじ」と呼んでいる）に到着。11月とは思えない小春日^{けいだいせいじゃく}和で，境内も静寂そのもの。途中，土蔵付の古い家屋もあり，ひなびた風情が感じられました。

四門寺からまた園瀬川に戻り，ニゴイなどの魚が群れている潜水橋を渡り，今回の見どころの一つ^{えのみや}宅宮神社に到着。お腹もすいてきたのでお昼にしました。境内はちょうど，七五三で



四門寺の境内

晴れ着姿の子供達や、おめかししたおかあさん方がちらほら。宅宮神社は、日本唯一の家屋の守護神を祭っており、式内社で名西郡十二社詣での第一番の宮です。たまたま宮司さんが私達に気が付かれて、自ら「操寿庵」と名付けた資料館を案内していただきました。中に入ると宮司の奥様の河野操さんが紙人形の卓越した技術で、阿波の米作り、桑畑とお蚕さん、みつまたから作る太布作り、それぞれの過程を紙人形で忠実に再現し展示しており、そのできばえに全員ただただ感激でした。（河野操さんは、藍の館や県立博物館の藍作りのミニチュア紙人形も作られています。）



操寿庵の展示を見学する



宅宮神社で記念撮影



樋口1号墳の石室内部

宅宮神社をあとに上八万小学校裏の通称中山を巡り、今回の最後の目的地の樋口古墳1号墳へと向かいました。通称前山の東斜面に南方向に開口する横穴式石室は草木に覆われ、入り口は山を所有されている地主さんがトタンで塞いでおり見つけるのに少々手間取りました。交代で石室に入りましたが、内部は緑色片岩の石材で構成されており、墳丘は円墳です。第3回「園瀬川探検」も樋口古墳で終わりとなり、みんなで文化の森まで帰り解散となりました。途中の上八万の農家では、お正月用のうらじろを冷蔵保存したり、正月用の注連飾り作りに精をだしており、21世紀の足音をまじかに聞きました。

友の会行事報告



写生大会報告

博物館開館10周年を記念して、写生大会を博物館との共催で11月3日から5日の間、開催しました。3日間で300名あまりの参加を得て、331点の作品が集まりました。中には、2日連続で参加し作品をしあげた子や、ずいぶん遠い小学校から参加してくれた子もいました。ふだんは足早に展示室を通り過ぎる子が多いのですが、この日ばかりは、どの子も真剣に展示物を見つめ、ペンを動かしていました。このような行事をとおして、徳島の自然や歴史に興味を持ち感性豊かな子ども達が育ってくれることを願っています。

また、12月5日から24日まで、写生大会の作品展を博物館1階企画展示室で開催しました。この作品展には、博物館のナウマンゾウを見た感動を表し、第5回全国^{るうがっこう}小学学校絵画展で最優秀賞を受賞した徳島県立聾学校4年生の辻^{つじ} 崇志^{たかし}君の作品も特別出品されました。作品展に先立って行われた審査会では、博物館長賞(展示物の特徴をよくとらえ、絵画的に優れている作品)、友の会長賞(展示物の特徴をよくとらえ、親しみがありユニークな作品)が各学年3名ずつ選出されました。入賞者は次のとおりです(敬称略):

- | | | |
|----|-------|--|
| 1年 | 博物館長賞 | 有吉きょう子(国府小)
川上まちこ(上八万小) |
| | 友の会長賞 | 根本麻衣(南小松島小)
熊本恵介(加茂名小)
ほり口たくみ(八万南小)
ふくいのみ(鳴教附小) |
| 2年 | 博物館長賞 | 大塚友喜(加茂名小)
戎 紫穂(八万小)
堀尾 誠(八万南小) |
| | 友の会長賞 | 野田茂伸(一条小)
高八美菜(加茂名南小)
田中晶子(助任小) |
| 3年 | 博物館長賞 | 宮本香凜(佐古小)
戎 瑞規(八万小) |
| | 友の会長賞 | ささべまさふみ(北島南小)
東 良亮(佐古小)
川上剛司(上八万小)
藤岡るみ(鳴教附小) |
| 4年 | 博物館長賞 | 宝山蘭美(加茂名南小)
重成静香(南井上小)
第十実夏(入田小) |
| | 友の会長賞 | 細川奈津実(入田小)
桂 早希(八万南小)
乗島栄子(八万南小) |
| 5年 | 博物館長賞 | 平尾早耶(国府小)
篠原英里(新町小)
大角 龍(富岡小) |
| | 友の会長賞 | 椋本泰史(昭和小)
簀手瑞佳(南井上小)
中村由美(南井上小) |
| 6年 | 博物館長賞 | 大塚美奈(加茂名小)
福井佑実(八万南小)
小川 史(藍畑小) |
| | 友の会長賞 | 宝山光國(加茂名南小)
漆川久美(高原小)
三浦恵美(国府小) |



ラプラタ記念ホールでの写生の様子

友の会行事報告



秋の研修会(飛鳥旅行)

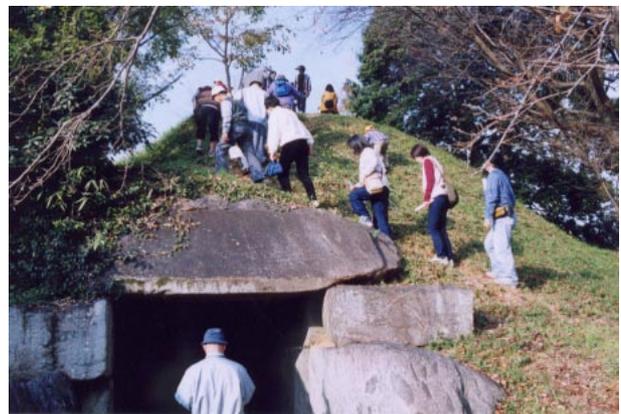
たかしまよしひろ
高島芳弘(博物館学芸員・考古担当)

11月25・26日に飛鳥地方に一泊の研修旅行を行いました。行き帰りは大型の貸し切りバスを使い、43名の参加がありました。

第1日目は昼すぎに奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に到着し、奈良県の縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺跡や遺物の展示を見学し、午後からの踏査のガイダンスとしました。その後、壁画で有名な高松塚古墳をはじめとして後期古墳や終末期古墳を中心に見て歩きました。予定最後の^{かめいし}亀石を見終わってもまだだいぶ時間に余裕があったので、橘寺と川原廃寺と追加してまわりました。

宿は相部屋となりましたが、子どもたちはゲームなどで盛り上がっていました。

第2日目は石舞台古墳からスタートし、午前中



岩屋山古墳



酒船石



飛鳥大仏

は主に飛鳥京に関連する役所跡や寺院跡、庭園跡などを見て歩きました。飛鳥資料館で2日にわたって見学してきた飛鳥のおさらいをし、幸運にも開催されていた亀形石や飛鳥池遺跡の展示も見ることができました。

午後は最古の古墳はしはか箸墓を見た後、バスの車中から柳本古墳群の大王墳を確認しながら帰路につきました。

だいぶ長い距離を歩きましたが、みんな疲れを忘れるほど感激していたようでした。研修会の詳しい行程は次のとおりです。



箸墓

< 第1日目 (11月25日) >

文化の森・徳島駅 檀原考古学研究所附属博物館
みせまるやま 見瀬丸山古墳 国営飛鳥歴史公園館
 (高松塚絵画館・高松塚古墳)いわやま岩屋山古墳
さるいし きんめいてんのうりょう猿石・おに まないたせつちん欽明天皇陵.....てんむ鬼の俎・じどうがっそうりょう雪隠.....天武・じどうがっそうりょう持統合葬陵.....かめいし亀石.....はしはか橘寺.....川原廃寺 宿

< 第2日目 (11月26日) >

宿 でん あすか石舞台古墳.....いたぶき飛鳥京跡 (伝飛鳥板蓋宮).....さかふねいし酒船石.....かめがた亀形石・飛鳥池遺跡.....飛鳥寺.....みずおちいせき水落遺跡 飛鳥資料館 山田寺跡
 箸墓 しづやむこうやま渋谷向山古墳 (景行天皇陵) 行燈山古墳
すじんてんのうりょう (宗神天皇陵) 徳島駅・文化の森
徒歩による移動 バスによる移動
 下線はバスから見学

次に、この研修会に参加されたお2人の方のお声を紹介します。



石舞台古墳石室の脇で記念写真

秋の研修会に参加して

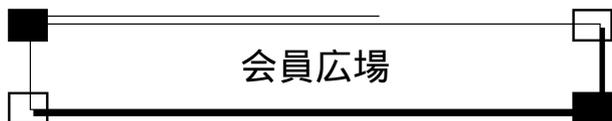
小野圭子（友の会会員）

高松塚古墳壁画，特に婦人群像に目を奪われま
した。その優しくふくよかな顔，ゆったりとした
着衣，色彩の鮮やかさに感動。飛鳥の人々の優雅
で繊細な生活ぶりを想像し，また，天井の星座図，
私たちと同じ星空を見上げていたのかと，感動い
たしました。

豊かな緑と紅葉に彩られた古墳めぐり。その壮
大なスケールに飛鳥の人々の力強さ，建築技術の
高さに圧倒されました。古墳群，石造物，いろい
ろなものに癒され心の中に沸き上がる大きな力を
いただいた，そんな感動の旅でした。

木田麻菜美（福島小6年，友の会会員）

秋の研修会に，お母さんとおばあちゃんといっ
しょに参加しました。とても天気良くて，たく
さん歩きました。たくさん歩いたから，暑くて，足
が痛かったです。そして，たくさんの古墳を見ま
した。古墳を見た中で石舞台古墳が，カッコよ
かったです。それは外から見た石の感じと中から
見た石の感じとは，全然ちがうからです。外か
ら見た石の大きさは，私より何倍もある大きさで
した。スッゴビックリしました。私は，この古墳
を見て，昔の人はどうやってこんな大きな石をは
こんだのかなぁと思いました。こんどは，家族4人
でゆっくりと見に行きたいです。



会員からの提案

会員の方から次のような提案をいただきました。

「(略)一つ提案があるのですが，会員の知ってい
る各種の情報を集積するシステムを作ったらどうか
ということです。例えばどこかに遊びに行つて珍し
いものを見つけたとか，博物館や資料館またミニ資
料館や屋外展示など，見学したときはなるほどと感
心するのですが，すぐ忘れてしまい後に残らないこ
とが多いので，これを資料化して活用するようにし
たらいいのではないかと考えています。具体的には
『博物館情報カード』のようなものを作って会員に
配布して，友の会の事務局に集積して保存・活用し
ます。中には学芸員の方にも役立つ情報があるかも
しれませんし，アワーミュージアムの原稿につな
がっていくのではないかと思います。(略)」

この提案に対して，会員相互の情報集積のために
Eメール等の活用を今後検討していきます。

このように友の会活動に対していろいろな角度か
らご提案をいただくことが，活動の中身をより充実
したものに変わっていきます。「もっとこうして欲し
い」，「こうだったらいいのにな」というようなご要
望もあわせて事務局までお寄せ下さい。

《事務局からのお知らせ》

初めての県外一泊研修や園瀬川をとおしての継続
的な活動など，今年度もさまざまな行事を行ってき
ました。来年度も今年の成果と反省をふまえ，博物
館友の会結成10周年にふさわしい行事・活動を展
開していきましょう。今後ともご理解，ご協力のほ
どよろしく申し上げます。

会員継続のお願い

ただいま平成13年度(4月1日～平成14年3月
31日)の会員を募集しています。現在会員の方も継
続していただくには，あらためて会費を納入してい
ただくこととなります。所定の振替用紙を利用して
いただき，継続してご加入いただきますようお願い
します。また，お知り合いの方やお友だち等にも声
をかけていただき，会員の輪がますます広がります
ようご協力をよろしく申し上げます。

15
February
2001
Fukushima
Prefectural
Museum

福島県立博物館友の会会報
アワーミュージアム

第15号

2001年2月10日発行 発行所 福島県立博物館友の会
〒970-8070 福島市八万町向中1 福島県立博物館内
TEL 024-668-3636 FAX 024-668-7197